

【中央台小学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月23日（木）午後6時30分～午後8時5分

2 開催場所

中央台小学校 体育館

3 参加者数 24名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

高森台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（中央台小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 高森台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆を対象に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 51 年度から令和 13 年度までの、中央台小学校の児童数の推移は、昭和 61 年度の 553 人をピークに、令和 13 年度では 82.8%減少の 95 人と推計される。

- ・中央台小学校は、今年度、児童数 153 人、6 学級で、学校規模は、全学年でクラス替えができない「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
- ・高森台中学校は、今年度、生徒数 285 人、9 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。令和 13 年度、19 年度、22 年度と、生徒数、学級数ともに減少し、令和 22 年度では、クラス替えができない学年がある「小規模」であると推定される。
- ・高森台小学校は、今年度、児童数 222 人、10 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 22 年度では「過小規模」であると推定される。
- ・東高森台小学校は、今年度、児童数 122 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、中央台小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 56.2%、地域の方で 75.7%となっている。
「反対」の方は、保護者で 9.9%、地域の方で 10.8%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」や「子どもたちの通学時間や距離」を心配する方がみえた。中央台小学校に、高森台小学校と東高森台小学校を加えた、高森台中学校区の小学校「全体」の結果と比較すると、中央台小学校の保護者は反対の割合が低くなっている。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、中央台小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

小学生の保護者では、「複数学級が望ましいと考えている人」は 90.9%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 56.9%となっている。その中で、中央台小学校を個別に見ると、複数学級が望ましいと考えている保護者の方は、小

学校全体の結果と同じ 90.9%、児童は 36.4%となっている。高森台中学校区全体と比較すると、児童では、複数学級を望む割合が 20.5%低く、その分 1 学級を望む割合が高くなっている。これは、中央台小学校が現在「過小規模校」であることが影響していると考えられる。今回のアンケート対象の 17 校の中でも、過小規模校や小規模校では、1 学級を望む児童が多い傾向があった。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「運動会などの行事でクラスに活気があること」、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」、「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」が大事だと考えている。中学生では「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」を 46.5%の生徒が選んでいるが、同様の項目を選んだ小学生は、高森台中学校区の小学生全体では 34.7%、中央台小学校では 22.9%であった。「クラスが変わって」をイメージしにくいからか、中学生と比較し、低い比率となっている。地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。
- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。
- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

<本市の考え方について>（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和 22 年度では、高森台中学校はクラス替えができない学年がある「小規模」であり、中学校区内の全ての小学校は、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることや、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、高森台中学校区は、石尾台中学校区、藤山台中学校区、岩成台中学校区と接しており、高森台中学校は、直線距離で、

石尾台中学校から約 1.1 km、藤山台中学校から約 1.5 km、岩成台中学校から約 2.3 kmの距離に位置している。

- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 高森台中学校については、「小規模」になると推定されること、また、小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区とあわせた検討も視野に入れる必要がある。
- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問 1】

統合する時期は決まっているのか。

【事務局】

現時点では、統合の時期は具体的に決まっておらず、まずは皆様の意見をお聞きたいという段階です。今後、意見交換会を開催しながら、皆様と議論を積み重ね、考え方がまとまり次第、具体的に進めていきたいと考えています。

仮に統合となった場合も、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい校舎を建てる場合によって期間が異なります。大規模な工事や改修をするとなると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要になると考えています。

【質問 2】

統合した場合、登下校に関して具体的にどのようなになるのか。

【事務局】

今の時点では具体的なことは決まっていません。仮に統合する場合、どの学校と統合するかによって通学区域が変わります。そのため、具体的な内容については、それからの議論になると考えています。

【質問 3】

現在、適正な規模を検討している小中学校は 17 校あると思うが、仮に統合となった場合、何校になると想定しているのか。

【事務局】

具体的に何校にしようということは決めていません。例えば高森台中学校では、令和 22 年度にはクラス替えができない学年があると推定されます。同じように中学校だと、藤山台中学校と岩成台中学校は全学年でクラス替えができないと推定されます。そのような場合は、隣接する中学校区とあわせ、適正な規模等を検討する必要があると考えています。

【質問 4】

学校施設の耐用年数は概ね 90 年であると聞いた。それを踏まえると建物の改修などの兼ね合いはどのように考えているのか。

【事務局】

ご質問のとおり、学校施設は概ね 90 年間利用することを目途とし、市は学校施設を継続して使うために 50 年程度で大規模なリニューアル工事を予定しています。適正な規模等の検討の対象となっている小中学校については、これから皆様と議論しながら方針を決定していくため、方針を見据えながら改修のタイミングなども検討していく必要があると考えています。

【質問 5】

仮に統廃合するとなったとき、5つの地区を同時進行で進めていくのか、順番に取り組んでいくのかを知りたい。

【事務局】

現在は 17 校とも同じ進捗状況ではありますが、今後、皆様と議論を重ねていく中で、進み方の違いが出てくると思います。市としては、可能な限り早く着手したいと考えておりますので、皆様と意見がまとまった地区から進めていきたいと考えています。

【質問 6】（意見）

令和 22 年の推計値を見るととても少ないと感じる。ただ、今は先生が子どもをきめ細かに指導していただき、大変助かっている。できれば 1 クラス 20 人程度で維持できるのであれば、学校を残してほしいと思う。

【質問 7】

現在は、住所によって学校区域を決定していると思うが、統合となった場合は、学校までの通学距離によって区域を決定すればよいのではないか。

【事務局】

学校の適正な規模や配置を考える際は、地域間のつながりも重視しています。中央台地区として一つにまとまって行ってきた活動や行事などがあると思うので、ご質問の点については、慎重に検討する必要があると考えています。

【質問 8】

過去に玉川小学校に統合の話があり、統合の検討に反対したら検討がなくなったなど、様々な噂が飛び交っている。何が事実なのか。

【事務局】

本市で過去に統合したのは藤山台小学校だけです。ご質問の玉川小学校が統合に反対して中止となった事実はありません。

市としては今の時点ではどこの学校を統合するなどの案は持っておらず、皆様と議論を重ね、検討を進めていきたいと考えております。

【質問 9】

学校の適正な規模等の考えがまとまったらスピード感をもって進めるとのことだが、何をもって考えがまとまったと判断するのか。

【事務局】

学校を統合することは非常にハードルの高い課題であると思います。過去に藤山台小学校を統合した際も、様々な意見が出て、全ての方が賛成することはありませんでした。今回の適正な規模等に関する検討についても、全ての方が同意することは難しいと考えています。なるべく皆様の意見を考慮して、市が最善だと思判断をすることが必要であると考えています。その際の基準は、具体的に決まってはいません。

【質問 10】

藤山台小学校が統合した際、どのようなスケジュールであったのか。

【事務局】

藤山台小学校は、平成 28 年度に 3 校が統合して開校しています。議論が始まったのは開校 6 年前の平成 22 年 4 月で、藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置されて検討が始まっています。その後、平成 24 年 2 月に藤山台中学校区により良い教育環境の実現に向けた第 1 次小学校統合計画が策定され、平成 25 年 2 月に第 2 次小学校統合計画が策定されました。これにより平成 25 年 4 月に藤山台小学校と藤山台東小学校が統合し、平成 28 年 4 月に西藤山台小学校が統合し、現在の藤山台小学校が開校しました。

【質問 11】

中央台小学校は母校なので残して欲しいと思う。資料のアンケート結果を見ると、統廃合ありきのような質問の仕方であると感じた。

また廃校となった学校の周辺地域には影響があると思うので、統合後の跡地の計画も地域の方に説明をして、計画を進めて欲しいと思う。

【事務局】

跡地につきまして、跡地の活用方法が決まらなると学校の適正な規模等の検討が進まないという事態は避けたいと思っております。子どもたちにとってより良い教育環境の向上を第一に考える必要あるため、跡地の問題は別で検討を進めていきたいと考えています。

ニュータウンの活性化については、市ではニュータウン創生課が中心となり取り組んでいます。ニュータウンの活性化施策と学校の適正な規模等に関する検討は、同時並行して進めていきたいと考えております。

【質問 12】

今、子どもが 20 人程度のクラスで過ごしており、35 人のクラスよりも良いと感じている。仮に統合となった場合、1 クラス 35 人になるのかについて知りたい。

【事務局】

仮に高森台中学校区の 3 つの小学校を統合すると、令和 22 年度には 1 学年に 1 クラスと推定される学年があります。例えば 1 学年が 35 人の場合は 35 人の 1 クラスになりますが、1 学年が 36 人の場合ですと 18 人ずつの 2 クラスになります。

市としては学校生活において子どもたちが人間関係につまづいた時などに、人間関係を変えられる環境があることが望ましいと考えているため、1 学年に複数クラスを確保したいと考えております。

【質問 13】

仮に統合した後、10 年くらいで再び過小規模となった場合はさらに統廃合するのか。それとも統廃合をした学校は何年か統廃合の間隔を開けるのか。

【事務局】

藤山台小学校は平成 28 年に統合していますが、今回の検討の対象となっています。当時の児童数の推計では、一定の児童数が確保できるという見込みではありましたが、想定以上に人口減少が進んでおり、今後は 1 学年 1 クラスになる学年があると推計されます。藤山台中学校区に関しては、小学校と中学校が 1 校ずつしかないなので、隣接する学校区とあわせた検討をする必要があります。

今回は 15 年後の令和 22 年度の数字を示していますが、先を見据え、中学校区内だけでなく、より広域な検討を進める必要があると考えています。

【質問 14】

今後の意見交換会のスケジュールは決まっているのか。

【事務局】

2 回目の意見交換会については、年内に高森台中学校区全体で実施する予定です。その後、意見交換会の状況に応じて、再度意見交換会を開くのか、地域や保護者の代表の方を集めた協議会のようなものを開催するのかを判断します。

【質問 15】

意見交換会の案内には、子ども同伴ができるかどうかの記載がなかった。次回、意見交換会を実施するときは、多くの保護者が参加できるように、その点を明記してほしい。また、子どもを同伴した場合、子どもをどうすればよいのか知りたい。

【事務局】

各小中学校の意見交換会でも、開催する時間帯について意見をいただいています。2 回目の意見交換会については、日時を土曜日か日曜日の日中に設定いたします。お子様を連れてきていただいて構いませんが、託児ができないので、その点についてはご理解をお願いします。

【質問 16】

高森台地区について、仮に 3 校で統合した際、中央台に集約された場合は問題ないが、高森台小学校に集約された場合、中央台小学校の児童は通学時間が延びる。そうすると石尾台中学校区の学校の方が近くなる場合もある。またアンケートの中でも反対意見の理由に登下校に関することが多くあったので、検討を進める際は通学距離を重視してほしい。

【事務局】

仮に統合して、統合先の学校よりも隣の地区の学校の方が近い場合、個人の希望だけで隣の学校へ通学することは難しいです。その地域の総意として要望があれば、検討する必要があると思います。

【質問 17】

仮に統合して、スクールバスを導入することは良いと思うが、バスの時間は決まっているので、家庭によっては時間が合わず、利用できない場合もあると思う。そのため朝、子どもが待ってられる居場所の創出も検討してほしい。

【事務局】

例えば、押沢台小学校では地域の方のご協力によって、子どもの家の場所を使った朝の児童の預かりを行っています。子育て担当の部署と、このような意見をいただいているということを共有し連携を取りながら、どれくらいのニーズがあるかなども含めて検討していきたいと考えています。

【質問 18】

児童の人数は減っているが、学童に通う子どもは増えていると思う。学童についてはどのように考えているのか。

【事務局】

子どもの家につきましては、基本的には学校の敷地内にあるのが望ましいと考えています。仮に統合となった場合は、新しい学校の中に多くの受け入れ人数を持つ学童が整備されることが望ましいと考えていますので、子どもの家を所管している部署と検討していきます。

【質問 19】

小中一貫校も検討しているのか。

【事務局】

魅力ある学校をつくるための一つの手段と考えています。検討を進めるにあたって、メリットやデメリットを皆様にお示ししながら、一緒に考えていきたいと思えます。

【質問 20】

意見がまとまったと判断するとき、市はどのように保護者や地域の方の総意が賛成であると判断するのか。また、藤山台小学校が統合した際は、どのように判断していたのか。

【事務局】

藤山台小学校の統合の際は、統廃合を前提で話が進んでいました。そのため協議会等で議論を継続することで統合を進めていきました。

今回の学校の適正な規模の検討については、最終的には市が判断しますが、皆様の意見を聞いていく中で、反対の意見が多い場合は考え方を改める必要も考えられます。賛成か反対を問うアンケートの実施については、現在のところ考えていません。

【質問 21】

いつまでに統合するという目標は決まっているのか。

【事務局】

いつまでにという期限は決めていません。早く合意形成ができた地区から、具体的に検討を進めていきたいと考えています。合意形成ができない地区は、場合によっては、再開時期を設けたうえで一旦議論を中止する場合もあります。

【質問 22】

市は統合したいということか。

【事務局】

統合ありきではありませんが、今の学校規模は子どもにとっても良くない状況と考えています。そのため皆様と一緒に議論を積み重ね、学校の適正な規模や配置について検討していきたいと考えています。

【質問 23】

子どもの人数以外で、学校がどうあるべきかといった考えはあるのか。

【事務局】

社会が複雑化していく中で、子どもたちが自分に自信をもって元気に育つということを根本的なこととして、学校と地域と家庭で子どもを育てていくということが本市の教育大綱の基本となっています。また、それに加えて、学校は学力を身に付ける場であると同時に、集団の中で他の人を理解し、お互いを高めあい、思いやりの心を育む場所であると考えます。そのような考えのもと、一定の学校規模が必要であるということを前提に、学校の適正な規模や配置について検討しています。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・今後の進め方については、高森台中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は高森台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、高森台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 8 時 5 分 閉会